

菅前首相、視察し謝辞



津田沼校舎正門の検温所前で(左から)松井学長、菅前首相、瀬戸熊理事長



学生食堂で瀬戸熊理事長(中央)から説明を受ける菅氏(手前左)



インフルエンザワクチンの接種を受ける学生

菅氏は視察後、「本日、大学を訪れ、新型コロナウイルス、インフルの両ワクチンが同時接種できる環



NHKの取材に答える福江聡総務部長(右)

菅氏は視察後、「本日、大学を訪れ、新型コロナウイルス、インフルの両ワクチンが同時接種できる環

本学、異例の早期接種

本学を訪れた菅氏は懇親の場で開口一番、「ま



ワクチン接種会場を視察する菅前首相ら

新型コロナウイルスインフル

両ワクチンを無料で

冬の到来でインフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行が懸念されるなか、本学は、インフルエンザと新型コロナウイルスの4回目職域接種と同時にインフルエンザワクチンも大学負担(無料)で学生・教職員に接種した。開始翌日の11月30日には、菅義偉前首相が津田沼キャンパスを訪れ、両ワクチンの接種会場と本学の学生支援や感染症対策への取り組みを視察した。

NEWS CIT

2022 12.15

千葉工業大学・入試広報部 〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 2丁目17番1号 TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

https://www.it-chiba.ac.jp/ 毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

- 2面 岡本さんらグッドデザイン賞 / 鳥羽さん、根立さんゴールド賞 / 野村さん自律ロボ競技で準優勝 / 東京理科大学柔道・男子団体が優勝
3面 皆既月食をPERCライブ配信 / エコメッセで村上研・南澤研展示 / 信川教授・熊野さんらADHDを実データと数理モデルで解析 / 5年度推薦系入学者選抜終了 / 出版案内
4面 第73回津田沼祭、対面で実施

を伝えし「まず」と述べた。これに対し瀬戸熊理事長は、菅氏が感染拡大の初期からワクチンが切り札と見定め、接種の加速化に全力を尽くした功績を讃えた。



ワクチン接種会場2号館前で

その後、瀬戸熊理事長らの案内で学生食堂を訪れ、▽感染下の学生たちの食の安定を考え、9月に全学生に1日3食利用できる食券(1万円分)を支給した▽食堂で黙食の推進、間仕切りの配置などを細かく配慮した

今回の職域接種は、新習志野、津田沼キャンパスの2会場で7日間実施。学生、教職員のほか、習志野市商工会議所、習志野市教育委員会、千葉県教育委員会、日本私立大学協会などに

対象を広く、新型コロナウイルスオミクロン株に対応するワクチンの接種者は合計2946人。学生、教職員を対象としたインフルエンザワクチンの接種者は1862人。両ワクチン接種者は1098人になった。

接種した学生たちは「インフルワクチンを同時に接種でき、時短につながる」「無料で接種でき、ありがたい」「ワクチンに安心せず、今後も基本的な対策は積極的にしていきたいと思う」と話した。

岡本さんらグッドデザイン賞

外国人入居者 手助けアプリ



博士課程1年、長尾徹研究員がプロダクトデザイナーとしてインターン参加している(株)P I Dのチャットアプリ「Diccon」が選ばれた。一般・公共用システ

世界4大デザイン賞の1つともいわれる「グッドデザイン賞」の2022年度受賞対象に、本学の岡本陸さん(工学専攻

ム・サービスの部での受賞。Diccon(Diversity Oncierge)は、日本で暮らす外国人と不動産管理会社を、自動翻訳機能を搭載したチャットツールでつなぐもの。入居者・管理会社双方にとって、言語の壁による意思疎通の心理的負担が大きいという問題を解決すべく開発に乗り出したという。アプリはQRコードを読み込むか、管理者からSMSで送られるURLをクリックするだけで、スマホのブラウザで利用開始可能。全入居者への一斉通知もできる。管理会社側は受け取

たチャットをカンバンビュー形式で整理し「未対応/対応中/対応済」と業務を効率化できる。国内外共通仕様として昨年3月から販売され、開発チーム5人のうちの1人に岡本さんが名を連ねた。岡本さんは院生進学とほぼ同時にインターンを開始。ユーザーが抱える問題からアプリに必要な機能を洗い出し、ユーザーとの接点をデザインする役割を担っている。



「悩み」を疑似体験しながら月経のことを学ぶボードゲームを作った。専用アプリで匿名相談所にもつながるようになっている。仕組みのデザインの部での受賞。審査で「ボードゲーム」として、複数で語り合いながら理解を深めることを大切にしている姿勢が表れている」と評価された。

龍澤春妃さんもニューホープ賞 龍澤さん(デザイン科学専攻修士1年、赤澤智津子研究室)は「Luane(ルアン)ー思春期女子学生に向けた月経教育パッケージ」と名付け、みんなと一緒に

に実装されるという貴重な経験ができたので、さらに研究や将来世代に還元していきたい」と話している。



宇井さんの排泄ケアシステムも 本学卒業生・宇井吉美さん(写真右下)の(株)abaが開発した排泄ケアシステム「Helpad(ヘルパッド)」も、家庭用福

祉用品・介護用品の部でグッドデザイン賞を獲得した。センシング技術AI技術を使い、便や尿の「におい」で排泄を検知する。おむつや衣服を着用したまま、専用の吸引シートをベッドに敷くだけ。おむつを開けずに排泄が分かるので介護職員の負担が減り、要介護者もより良い介護が受けられる。パラマウントベッド(株)と組んで2019年に実用化した。

発電菌やナノニードルで

鳥羽さん、根立さんゴールド賞

根立 拓郎さん

次世代の科学者育成のため材料技術研究協会が主催するInternational Student Symposium 2022(ISS)8月27日、オンライン開催)の口頭発表で、本学の根立拓郎さん(先端材料工学科4年、高橋伊久磨研究室)と鳥羽悟史さん(生命科学科4年、黒崎直子研究室)がそろってゴールド賞を受賞した。2人の発表テーマと受賞の感想は次の通り。



「谷津干潟の泥土を利した微生物燃料電池に関する研究」 谷津干潟の泥土中に存在する発電菌を電極に用いた微生物燃料電池の研究。発電菌が谷津干潟の環境汚染要因である泥土中の有機物を分解して発電するのでクリーンな発電だ。同時に谷津干潟の浄化もでき、国連が掲げるSDGs(持続可能な開発目標)への貢献が期待できる。

鳥羽 悟史さん 「2.0ナノニードルによる殺菌作用」 昆虫の翅表面のナノニードル構造が殺菌作用を示す「メカノ殺菌効果」が発表された。緊張しましたが、自信を持って発表できました。サポートしていただいた先生方、先輩にはとても感謝しています。



成が大変だったという。「初めての学会で受賞でき、光栄です。緊張しましたが、自信を持って発表できました。サポートしていただいた先生方、先輩にはとても感謝しています。」

発表では図やイラストを多く用い、分かりやすいスライドを心掛けた。「研究計画や実験方法を始めて、初めての学会発表はよい経験になりました。先生や先輩方のご指導に感謝しています。」

自律ロボ競技で準優勝

野村さんトレース技術駆使



第39回マイクロマウス(準)は3種目が競われ、中部地区大会(10月30日、名古屋熱田区の名古屋工学院専門学校で開)クズ学科3年、林原靖男(白テープの直線、曲線が約45度にわたって複雑に引かれ、そのラインを自律ロボットにトレースさせる。巧みさ、速さ勝負で、走行中は人が操作してはいけない。野村さんは、設計から選手への161名に対し、相手は185名。香取選手は素早い動きから勝負しい投げを連発。中盤、左の二本背負いを放ち一本勝ち。大将戦・平川選手、体重を生かし相手を捕まえ払腰で一本勝ち。優勝決定戦を4対0で圧勝し、3試合全勝で優勝を果たした。

研究室(写真)が準優勝した。競技は、黒い走行面に白テープの直線、曲線が約45度にわたって複雑に引かれ、そのラインを自律ロボットにトレースさせる。巧みさ、速さ勝負で、走行中は人が操作してはいけない。野村さんは、設計から選手への161名に対し、相手は185名。香取選手は素早い動きから勝負しい投げを連発。中盤、左の二本背負いを放ち一本勝ち。大将戦・平川選手、体重を生かし相手を捕まえ払腰で一本勝ち。優勝決定戦を4対0で圧勝し、3試合全勝で優勝を果たした。

タイムを縮めるには設計、プログラムの両方を改善しないといけない。ネット上で調べたり、経験者から情報を集めたりして、今回は1位と約3秒差で準優勝した。

野村さんは1年次から競技を始めたという。「初めての入賞なのでうれしい。今後も全日本学生大会や、社会人参加の全日本大会があるので、頑張りたい」と語った。

東京理科大学柔道

本学、男子団体で優勝



優勝した柔道部。前列左から2人目が佐々木主将

令和4年度東京理科大学柔道優勝大会が10月2日、講道館(都内文京区)で開催され、本学体育会柔道部(佐々木練主将)電気電子工学科4年(部員27人)は男子団体試合で優勝した。大会は本学と工学院大、芝浦工業大、東京電機大、東京都大、東京理科大、法政大の7校で構成。部員不足の不参加校があり、4校でのリーグ戦となった。

1試合目、東京理科大(同)、平川陽大(同)、木内乾(電電1年)、佐野翔太(知能1年)、香取拓真(経情1年)、福田航大(PM1年)。

佐々木主将の話 指導いただいている坂本幸弘部長(先端材料工学科教授)、今井学監督(監査室)ら関係する方々に結果で恩返しでき、ホッとしています。試合前に坂本部長・金子満男先生(元同窓会事務局)・須長梯治先生から激励の言葉を頂いたお陰で優勝できました。活気ある稽古を継続させ学業との両立を図りたいと思います。

皆既月食 ライブ配信

PERC ■ 秋田谷上席研究員が解説



①皆既月食の配信画面と②秋田谷上席研究員

千葉県八街市教育委員会と本学惑星探査研究センター（PERC）は11月8日、市内の小・中学生と保護者を対象に皆既月食の特別観望会を開き、その様子をYouTubeでライブ配信した。観望会は今年で2年目、昨年は雲で見えなかったものの、今年のコンディションは良好。昨年に続きPERCの秋田谷洋・上席

生と保護者を対象に皆既月食の特別観望会を開き、その様子をYouTubeでライブ配信した。観望会は今年で2年目、昨年は雲で見えなかったものの、今年のコンディションは良好。昨年に続きPERCの秋田谷洋・上席

今年度のYouTubeの再生回数は2695回と過去最多を更新した。質問に対応した秋田谷上席研究員は「せっかくの皆既月食、自身の目で見てほしい」と話した。

今年度のYouTubeの再生回数は2695回と過去最多を更新した。質問に対応した秋田谷上席研究員は「せっかくの皆既月食、自身の目で見てほしい」と話した。

水環境保全、多様性を守る

エコメッセで学部生・院生らが活躍

環境活動の見本市「エコメッセ2022」が10月23日、幕張メッセ国際展示場で3年ぶりに対面開催された。今年のテーマは「people・笑顔のバトンをつなげよう」。本学の生命科学分子生態工学研究室（村上和仁教授）、教育センター南澤研究室（南澤慶寛准教授）など大学・市民団体・企業・行政、オンライン参加を含め82団体が多様な取り組みを展示した。

環境活動の見本市「エコメッセ2022」が10月23日、幕張メッセ国際展示場で3年ぶりに対面開催された。今年のテーマは「people・笑顔のバトンをつなげよう」。本学の生命科学分子生態工学研究室（村上和仁教授）、教育センター南澤研究室（南澤慶寛准教授）など大学・市民団体・企業・行政、オンライン参加を含め82団体が多様な取り組みを展示した。

環境活動の見本市「エコメッセ2022」が10月23日、幕張メッセ国際展示場で3年ぶりに対面開催された。今年のテーマは「people・笑顔のバトンをつなげよう」。本学の生命科学分子生態工学研究室（村上和仁教授）、教育センター南澤研究室（南澤慶寛准教授）など大学・市民団体・企業・行政、オンライン参加を含め82団体が多様な取り組みを展示した。



村上研④と南澤研⑤の展示

環境活動の見本市「エコメッセ2022」が10月23日、幕張メッセ国際展示場で3年ぶりに対面開催された。今年のテーマは「people・笑顔のバトンをつなげよう」。本学の生命科学分子生態工学研究室（村上和仁教授）、教育センター南澤研究室（南澤慶寛准教授）など大学・市民団体・企業・行政、オンライン参加を含め82団体が多様な取り組みを展示した。

ADHD 実データと数理モデルで解析

信川教授と熊野さんら

本学の大学院生・熊野開さん（情報科学専攻修士1年、信川創研究室）と指導の信川教授は11月8日、計算機上に構築した瞳孔径制御の神経経路モデルに瞳孔径時系列の実データを組み合わせ、注意欠陥・多動性障害（ADHD）を生物学的指標で推定する

方法を実現したと発表した。現在は問診主体のADHD診断に、客観的・定量的な指標による推定が加わると期待される。成果は熊野さんを論文の筆頭著者として、米科学誌ニューラル・コンピューテーション電子版（10月14日付）に掲載された。

ADHD患者の左右の瞳孔径は刻々、特徴的に変化する。信川教授らはこれまで、瞳孔径を制御する神経系を計算機上に構築する数理モデルを提案。近年、明らかになってきたADHDと脳深部の青斑核（LC）との関係を、実データと併せて解析してきた。

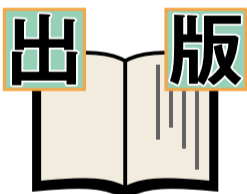


ADHD患者の左右の瞳孔径は刻々、特徴的に変化する。信川教授らはこれまで、瞳孔径を制御する神経系を計算機上に構築する数理モデルを提案。近年、明らかになってきたADHDと脳深部の青斑核（LC）との関係を、実データと併せて解析してきた。

熊野さんは研究で数理モデルによる計算機実験を担当し、ADHDへの関与が想定されるパラメータ領域を特定するなどの役割を果たしている。信川教授は今後、モデルをさらに精密化し、特徴量の抽出方法を洗練させていきたいとしている。

5年度 推薦系入学者選抜が終了

令和5年度総合型（創造）選抜が10月15、16日に実施されたのを皮切りに11月20日学校推薦型選抜（指定校制・帰国生徒指定校制）、編入学選抜（指定校制・高等専門学校）▽同26日特別選抜（指定校制・帰国生徒指定校制）を完了した。



デジタル人材、自ら育成を



デジタル人材育成を薦める。角田教授によると、ユーザー企業は長年、IT企業へ過度に依存してきたが、今後は自らデジタル人材を育成して依存から脱却することが日本経済復興のカギだと言う。これをユーザー企業中心の「ユーザーシフト」と述べている。



著者：角田 謙二
発行：クロスメディア・パブリッシング
価格：1408円（税込み）

子どもたちを乗せたミニ電車が復活



秋の大学祭「第73回津田沼祭」(実行委員長・稲泉美輝さん)が11月19、21日の3日間、津田沼キャンパスで開催された。一昨年・昨年とコロナ禍でオンライン開催に移行していたが、今年は3年ぶりに対面で実施。祭りで前へ進め、躍動する姿を届けたい――掲げたテーマは「前進」写真下。自身の前へ、物事もよりよい方向へ、との思いを込めた。



第73回津田沼祭

実行委スタッフの努力をたたえるように、秋晴れに恵まれた初日、実行委・自治会の学生と関係教職員が見守る中、開会宣言が行われた。展示発表件数やイベントは3年前に比べると、さすがに縮小済み。それでも初日、開放されたキャンパスには地域の人々が続々と訪れ、笑い声と笑顔で一気ににぎやかな空間に。



対面復活「前進」掲げ キャンパスに笑顔



ギターを弾いて楽しいひとときを……

名物企画の「ロボットコンテスト」や「ちびっこてづくり教室」に「よさこいソーラン風神部」の迫力ある舞いが加わり、来場者は楽しい時間を過ごした。2日目は学生・市民お待ちかねの「プロコンサート・お笑い&トークショー」が開かれた。ゆったり感、

バンピーノ、はんにゃ、カミナリが登場し、会場は笑いに包まれた。さらには恒例のピンゴ大会で最高に盛り上がった。3日目は、無念の雨。野外での企画展開は短縮されたが、屋内では人気「e-sports大会を開催。大乱闘スマッシュブラザーズ SPECIAL」を使って干葉工大最強の勇者を決める戦いが繰り広げられた。今年が創立80周年を迎えたことで、3日間を通して記念企画を実施。干葉工大の歴史を写真で振り返る「メモリアル記念館」には、懐かしい行事、学生たちの姿が飾られ、未来へ向けて何をしたいかを書き込める場も用意された。このほか昔の遊びを再現するミニゲームや子ども向け



稲泉実行委員長

「コマの絵付け体験」などの企画でにぎわった。実行委員長の稲泉さんは「3年ぶりの対面開催となりましたが、約1万人にご来場いただき、実りある大学祭になりました。関わっていただいた全ての方に感謝します。来年もよりよい大学祭にしたいです」と語った。



ハンマーを振るって、だるま落とし



よさこいソーラン風神部の演舞



ロボットコンテストは満員の人気



ドローンの飛行体験に挑戦



創立80年を振り返るメモリアル記念館

編集だより
2022年も、残すところあとわずかとなりました。この一年を振り返ると、ついでないことが多かったような気がする。右足の骨折から始まり、骨折が原因で血栓症となり、人生で初めて救急車に！ そのまま入院。これだけでもたいそ

編集だより



うな出来事なのに、肩が突然痛くなり動かせず、着替えるたびに涙(大げさでなく)等、この他にも多々あるのだが、心配をかけるだけなので割愛。悪い運氣から逃れるにはどうしたものかと調べたところ、ツイていないと思うのではなく、自分自身が大きく変化する前兆なんだと、捉えるというらしい。自分が置かれている状況から人生が好転していく節目。それが

「運氣の変わり目」だといふのだ。今年最後、クリスマスに大好きなキンキキッズのコンサートに当選した。大晦日の紅白、年越しライブでも2人の姿を見ることが出来ると思うと、想像するだけで運気上昇といった気分。皆様におかれましては、良い年越しになりますよう、お祈りしています。
入試広報部
大橋 慶子

四季雑感
12月に入り街はクリスマス飾り付けに彩られています。津田沼キャンパスのクリスマスイルミネーションも輝き、大学から津田沼駅に向かう道でイルミネーションを撮影している人の姿は、お馴染みになっています。今年がサッカーW杯開催の年、開催国の中東



(カタール)は夏時期に気温が40度を越えるため、初めて冬時期の開催となりました。今大会で日本代表は、ベスト16で敗退してしまいました。が、グループリーグで強豪国であるドイツとスペインの2カ国と対戦して見事勝利を飾ったことに驚きと、日本のサッカーが世界に通用することを示した素晴らしい試合でした。また、日本人サポーターが試合後にスタジアムのゴミ拾いをする

行為に対して、大会の運営委員会から表彰されました。サッカーの試合だけでなく、日本人サポーターのマナーの良さがクローズアップされたことに、同じ日本人として嬉しく思いました。次回のW杯こそは、悲願のベスト8に進出を！
これから寒さが一層厳しくなりますが、皆様どうぞ良いお年をお迎えください。
教学センター
軽部 伸吾

PPA
このコラムを書いている今は、4年に1度のサッカーの季節。W杯が非常に盛り上がっている。今大会は、ゴールしてもすぐに一喜一憂させてくれない。「半自動オフサイドテクノロジー」で腕が僅かにオフサイドラインを出ていると言われ

可能性があるし、ラインをボールが割ったかどうかミリ単位で判定されるからである(日本はこの技術に救われた側)。調べてみると、スタジアムの屋根に数台のカメラが設置され、選手達をAIでトラッキングしていたり、センサ内蔵のボールで位置・回転・速度等を計測しているとのこと。もはや巨大な実験施設である。

ここで取られたデータは、その試合の審判のためだけに、将来の新しい技術の研究にも使われるのだろうか。4年後のW杯では、どんな技術が新たに登場しているだろうか。気が早いですが、今大会以上の日本代表の活躍を期待するとともに、技術の進化も楽しみにしたい(研究者としては他人事ではないが……)。
人工知能・ソフトウェア技術研究センター
吉川 友也